

○ 1 1 番 中野衣梨君

中京中学校 3 年、中野衣梨です。私は、勉強する環境の平等について、質問します。

文部科学省の調査結果では、不登校児童や生徒が 2 0 1 3 年以降、増え続けています。行橋市の現状を聞くとともに学校に登校することができない児童や生徒に対し、学校がどのような取り組みをしているのか、教えてください。

○議長 白橋陽那君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 長尾明美君

中野議員の質問にお答えいたします。不登校の問題については、非常に深刻な教育課題でありまして、また教育委員会といたしましても重要課題と捉えております。

本市の不登校の現状ですが、令和元年度が 1 0 1 名、令和 2 年度が 1 3 4 名、令和 3 年度が 1 6 1 名となり、増加傾向にあります。こういった状況の中、学校での児童生徒への支援についてですが、まずは、不登校児童生徒と一番関係の深い教員が担当となりまして、マンツーマンの対応で支援の充実を図ったり、また心理・福祉の専門家でありますスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して、個々の事情等を踏まえながら対応している状況でございます。以上です。

○議長 白橋陽那君

中野議員。

○ 1 1 番 中野衣梨君

次の質問に移ります。私は、学校生活に幸せを感じます。それは体育祭のときにクラスが一つになる達成感を味わえたり、将来の夢に向かってしっかり勉強できるからです。だから学校に登校できない子どもたちに将来の夢の道を狭くしないように、学びを保障するため、塾などの学びの場があれば、学力保障もできるし、学校以外の場所があることで安心して通うことができ、悩んでいる子どもを救うことができると思います。

だからそのような子どもたちへの対応について、教えてください。

○議長 白橋陽那君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 長尾明美君

中野議員の質問にお答えいたします。とてもやさしい気持ちが伝わりました。

まず、本市の現在の対応について、お答えしたいと思います。

学校に登校できない子どもたちへの学習保障については、行橋市には、ほほえみ教室というのがございまして、それを開室し、学校に通うことが難しいと思われる子どもたち

の受入れを行っています。

このほほえみ教室においては、学習の保障を含めて、人間関係を築くためのスキルの習得や体験活動、心の専門家である臨床心理士による教育相談、学習の支援だけでなく、社会性を身につける支援を行いながら、できる限り学校復帰を目ざした支援をしているところです。しかしながら、ほほえみ教室にも足が向かない児童生徒もいらっしゃいます。そういう児童生徒の方には、タブレットによるオンラインを活用してオンライン授業や学習課題の提供を行って、自宅でも学習環境が整うような支援も行っています。このように学校では、一人一人の状況に合わせた学習支援をしています。

今、議員おっしゃったように、すべての子どもたちの学習環境が整っているかというと、そこはまだ不十分だというふうに思います。他の対応を検討する時期にきているのではないかと私は捉えております。

引き続き、学校と連携しながらSDGsの持続可能な開発目標である、誰一人、取り残すことのない教育の充実、質の高い教育というのを目指していきたいと考えております。以上です。

○議長 白橋陽那君

中野議員。

○11番 中野衣梨君

以上で質問を終わります。ありがとうございました。